

# 北沢地域の住民として街づくりに関わって

平成18年12月20日

原告 中村玲子

## 1. はじめに

北沢の隣町松原に住む中村玲子と申します。

基礎医学を修める夫と家庭を持ち、京都、金沢を経て東京に移り、ここ世田谷に生涯住み続ける家をもとめて15年が経ちます。四季のめぐりを楽しみながらまちを歩き、週末にはシモキタへ足を伸ばすことは私たちの楽しみとなりました（写真資料1）。

ところが引っ越してまもなく、私の家の周辺でも土地の売買が盛んに行われ、整地された土地は細分化されたり、周囲に馴染まないマンション建設が行われ、周辺住民との間で紛争が起きていることを知りました。

やがて、私の家もそのような影響をもろに受ける立場となり、私の目は世田谷区で行われているまちづくりに自然に向けられるようになりました。

## 2. まちづくりとの関わり

1997年以来私は世田谷区主催のまちづくりセミナーに積極的に参加してきましたが、とりわけ重要であったものは、2003年5月世田谷区が公募した市民を対象に開催した「地域整備方針提案検討会議」でした。

この会議の目的は『今後10年のまちづくりのあり方を考え「地域整備方針」に盛り込むべき内容を区民に提案してもらうこと』にあり世田谷全域で150名の住民がこれに参加しました。

ところで世田谷区は地域密着型の行政サービスを行うために1991年度より「世田谷」「北沢」「玉川」「砧」「烏山」の5地域に総合支所を設けています。そして下北沢にある「北沢総合支所」は松原、北沢、大原、代田、羽根木など11町を管轄して

います。

私は、「北沢地域」の住民として北沢総合支所で開かれる月例会をはじめ、様々な会合に約2年間参加してきました。

### 3. 検討会議の成果と問題

検討会議の構成員は、私のような一般住民だけでなく、世田谷区に関わりがある人々も少なくなかったのですが、「住みにくくなってきている世田谷を何とかしなければいけない」という思いは全参加者が共有するものでした。

国も地方も巨額の借金を抱える中で始まっている少子高齢化社会でいかに住みやすい世田谷を構築するか、私たちは真剣に話し合い、2003年12月に具体的で明確な提案を区に提出しました。

ところが2004年に行われた世田谷区との意見のすりあわせでは、都市開発の抑制、道路建設の中止を含む見直しなど都市計画の根幹に関わる区民の提案はほとんど取り入れられませんでした。

### 4. 北沢地域の区民提案とその後の下北沢の再開発計画の展開。

北沢地域の検討会議が提案した下北沢まちづくりは、まちの特性を生かした修復型のまちづくりを目指しており、補助54号線やバスターミナルを含む駅前広場の建設を見直し、小田急跡地の公的利用を促し、みどりを増やすこととしています。

ところが、私たちが提言をまとめた一ヵ月後の2004年1月、世田谷代田駅、東北沢駅間の小田急線連続立体交差事業の事業認可が東京都から下ろされ、下北沢のまちづくりが急速に進みだしました。

行政が提示する下北沢再開発計画は20世紀型の開発重視のものです。従って私は検討会議の参加者として引き続き下北沢の将来のまちづくりに関わることは住民としての義務と責任であると考え、現在“Save the 下北沢”の一員としてまちへの関わりを持ち続けております。

## 5. 補助 54 号線の我が家への影響

実は検討会議に出席して初めて知ったことのひとつが、補助 54 号線が環状七号線を西に越えて建設されると私の家の南 150 メートルのところを走るということです（写真資料 2）。

周辺に広い道路がないため、車の通行量が少なく、静かな環境が保たれている現在の松原の様子は、補助 54 号線の建設で一変することは間違いありません。

私は 40 年間地方で暮らしましたが、地方の都市と東京を比較するにつけ、東京の過密状態は異常であり、それによって生活者が受けている弊害はきわめて深刻であると常日頃感じております。節度を越えた自由競争が個人の生活を侵害している事例にもこと欠きません。

現に補助 54 号線道路予定地に隣接するところでは、一年前にわかりにマンション計画が起こり、多くの近隣住民との間で係争中です。その計画では業者はあらゆる建設上の緩和措置を駆使して、1 種低層住宅地内に 4 階建て 40 数戸のマンションを建てるというものであり、今後同様の建築物が次々と道路予定地に沿って建てられることになると、私たち検討会議の参加者が共有している将来のまちづくりの姿と大きくかけ離れたものとなり、補助 54 号線建設はその影響の大きさゆえに到底認めるわけにはいきません。

## 6. 司法へのお願い

実に 20 世紀のまちづくりは破壊と建設の繰り返しでしたが、その弊害を痛感しているのは紛れもなくそこで生活する住民です。私たちの思いは、歴史や文化の集積であるまちのよさを次代に伝えなければならないということです。

司法におかれましてはなにとぞ下北沢の実情を精査していただき、まちに生きる生活者の声に耳を傾けていただきたくよろしくお願い申し上げます。

以上



1. 四季のめぐりを感じさせる下北沢の路地  
散歩が楽しい



2. 松原の静かな住宅街  
54号線はこの脇を通過する計画になっている